

## 市民クラブ 太田 龍三 議員



- 1 生活保護業務の取り組みについて
- 2 鈴鹿環状線(磯山BP)の進捗について

**質問1** 過去の通院移送費不適正支給事案の反省も踏まえ、現在の業務の実施体制はどうなっているか。また、現在の業務の課題はどのようなものがあり、その課題に対しどのように取り組んでいるか。

**答弁1** 現在の人員はケースワーカー13名、兼務の査察指導員1名、専任の査察指導員2名の体制である。過去の通院移送費問題の反省を踏まえ、法令遵守の相互確認の徹底、ケースワーカーだけでなく福祉事務所としての判断となるよう事務処理手続きの徹底、重要案件は必ずケース会議を開催している。現在の課題

としては、自立支援の援助と不正受給の増加が挙げられ、自立支援の援助については、研修会を実施してケースワーカーの資質向上を図ったり、ハローワークとの連携に取り組んでいる。不正受給の増加対策については訪問調査や課税調査、預金調査等を行っており、悪質な場合は告訴もする。

**質問2** 鈴鹿環状線磯山バイパスの取り組み状況はどうなっているのか。

**答弁2** 県に確認したところ1工区については概ね3年後の供用開始を予定しているとの回答であった。2工区については23年度において測量及び道路計画などに着手するとの回答であった。市としては今後も早期供用と着工を目指し努力していきたい。

## 市民クラブ 大西 克美 議員



- 1 白子駅前広場整備事業について
- 2 危険道路の歩道整備について

**質問1** 白子駅前広場整備事業の進捗状況と今後の予定、周辺地域の商業活性化策はどうなっているか。

**答弁1** 進捗状況については昨年度から工事を進めており本年度末には進捗率66%を想定している。概ね当初事業計画どおりの進み具合である。今後はシェルター南側部分の建築工事と、舗装等の工事を行い年度当初に南側拡張部分の暫定供用を開始したい。来年度以降は北側部分の道路構造物の整備とシェルター北側部分の建築と西側街路の一部拡幅整備を予定している。周辺地域の商業活性化については駅前広場の

完成による周辺環境の変化を契機として、関係機関と連携して取り組んでいきたい。

**質問2** 市内危険道路(市道・県道)の認識箇所数は。歩道整備が進まないのはなぜか。県道稲生山線の歩道整備はどうなっているのか。

**答弁2** 市内27箇所を人身事故多発地点として把握している。通常の歩道整備には多額の費用と長い時間を要するため、歩行者空間(グリーン帯)事業に取り組んでいる。県道稲生山線の歩道整備については、三重県に対して再三歩道整備の要望をしており、今後も引き続き強く要望していきたい。



## 無所属 中村 浩 議員



- 1 避難所についてのパート3
- 2 消防長について

**質問1** 第5次鈴鹿市総合計画の第3期行財政経営計画の想定について。避難所等の目標の設定について、ひとの命をそんな安易な事で考えて良いのか。避難所の整備について、どの様なことを示しているのか。指定の見直しについてはどうか。コミュニティセンターは建設しないのか。

**答弁1** 第1期行財政経営計画では成果指標を地震による死者想定数としていたが、想定死者数を成果指標とすることは適切でないため第2期行財政経営計画

では避難所の耐震化やマンホールトイレの整備率を成果指標にしている。第3期行財政経営計画でも第2期と同様の目標を設定する予定である。避難所の指定については、三重県が10月に発表した津波浸水予測図速報版に基づき見直しを行っていく。コミュニティセンターを新たに建設する予定はない。

**質問2** 消防長を消防署長等や市町村の部課長から人選してはどうか。

**答弁2** 第2代消防長から現在の第14代消防長まで警察本部出身者が消防長に就任している。消防長は消防行政を遂行するうえで大変重要な地位であり、任命資格についても政令で定められているため、警察本部出身者に限らず消防署長等や市の部課長等も視野に入れて、職責を全うできるような適任者を考えていきたい。